

# 播磨の弥生墓

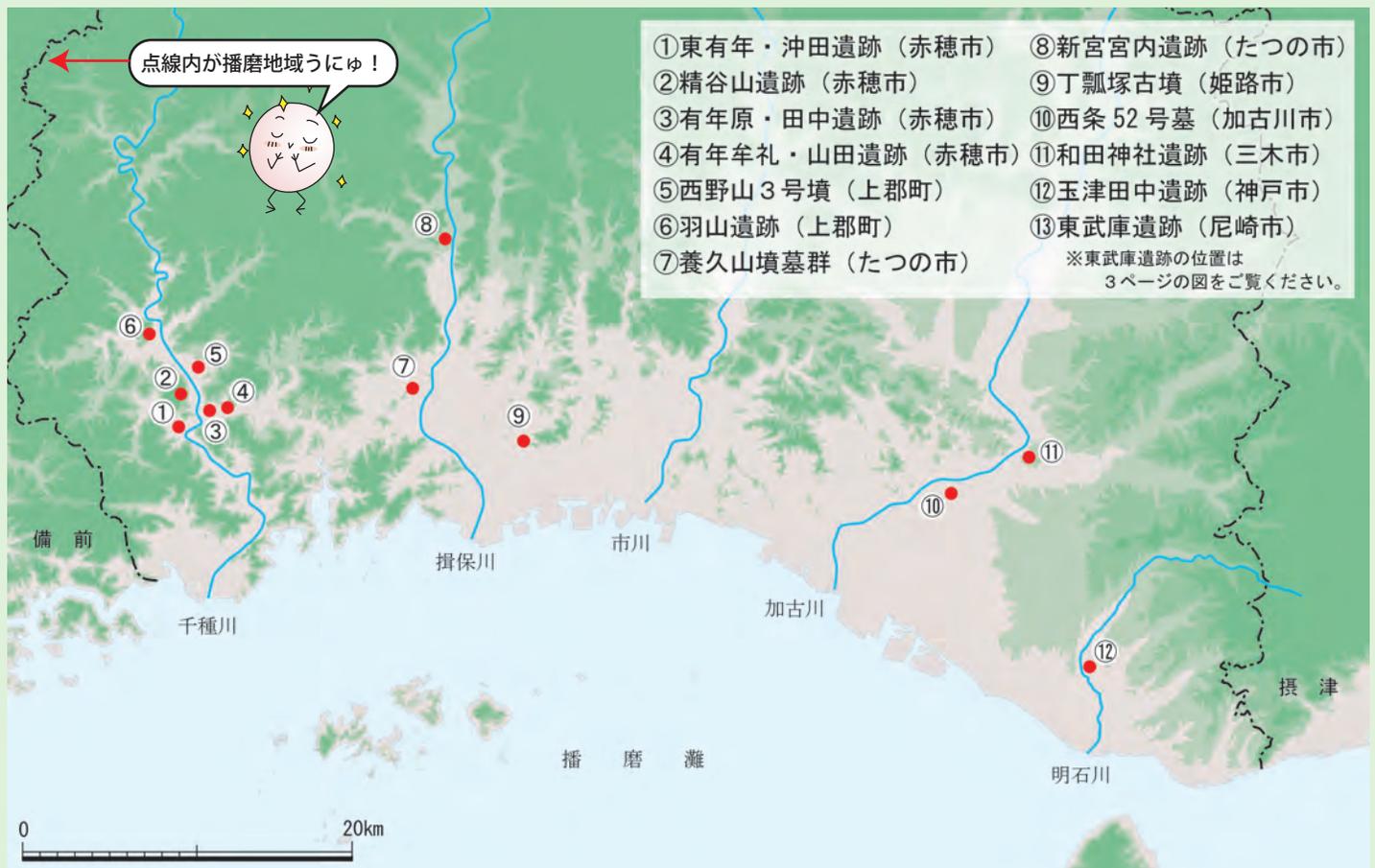
— 円形周溝墓と方形周溝墓 —

## 1. はじめに—弥生時代の墓とは？

弥生時代（今から約 2,500 ～ 1,750 年前）の日本列島は、米づくりや鉄器・青銅器などの文化が朝鮮半島から伝わり、文化・習慣、そして社会が大きく変化した時代でした。

その変化の中には「墓」の変化もありました。縄文時代と比べると、弥生時代の「墓」は大小のちがいや手厚さなどにバリエーションがでてきます。このことから、弥生時代には、葬られた人の出身・年齢・身分・地位などによって、どんな形の墓を造るか、どんな棺に納められるかなど、「墓」の造り方について、**地域や時期によってこと細かな決まり事があったものと推測されます。**

そのため、「墓」を調べることで当時の文化や習慣、その広がりや社会のようすまで知ることができます。この展示では「墓」をキーワードに、播磨地域の弥生時代について考えていきます。



本展の関連遺跡

## 2. 弥生時代のはじまりと「墓」－弥生時代前期（約 2,500 ～ 2,200 年前）

今からおよそ 2,500 年前、朝鮮半島から伝えられた様々な文化が日本列島に根付き、弥生時代が始まります。米づくりなどとともに**朝鮮半島から伝えられた様々な文化の中には、「墓」の文化もありました。**

縄文時代の日本列島では遺体をそのまま土に埋めたり（<sup>どこうぼ</sup>土坑墓）、土器に遺骨や遺体を納める墓（<sup>どき</sup>土器<sup>かんぼ</sup>棺墓）が主流でした。ところが弥生時代になると、木でできた棺に人を葬る習慣が朝鮮半島から伝わり、遺体を木の棺に納める墓（<sup>もっかんぼ</sup>木棺墓）が現れます。これらの土坑墓や木棺墓は地面にそのまま造られることもありますが、**溝によって区画され、土盛りをもった墓である「周溝墓」**の中に造られることもありました。

### 弥生時代の主な棺や墓



一番多い  
普通の墓！

土坑墓

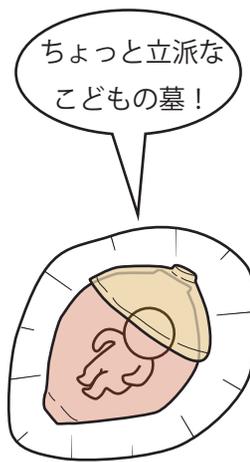
ただの穴に  
そのまま葬られます。



ちょっと立派な  
大人の墓！

木棺墓

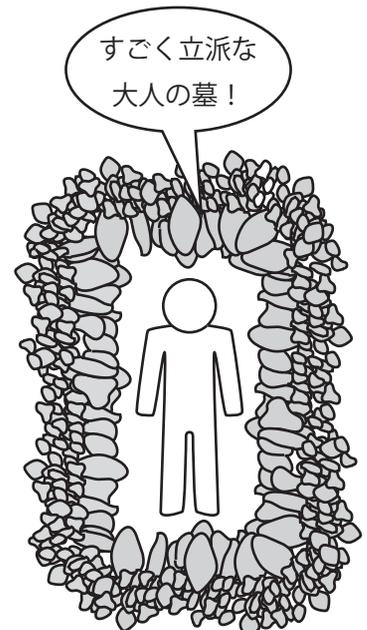
木の板を組み合わせた  
棺の中に葬られます。  
大きくなった子どもも  
葬られます。



ちょっと立派な  
こどもの墓！

土器棺墓

土器を棺にして  
葬られます。  
乳幼児用の墓と  
いわれています。

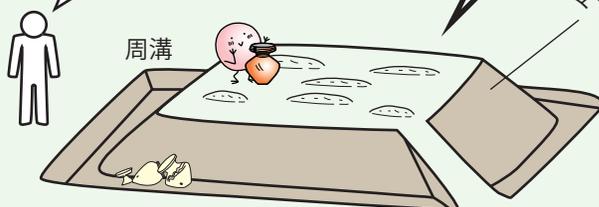


すごく立派な  
大人の墓！

せっかくぼ  
石槨墓

穴を掘って、そこに石を積上げて  
造った空間に葬られます。  
とても特別な墓です。

たくさん棺があることが多いです。



方形周溝墓

マウンド（墳丘）

棺は基本的に1つ。

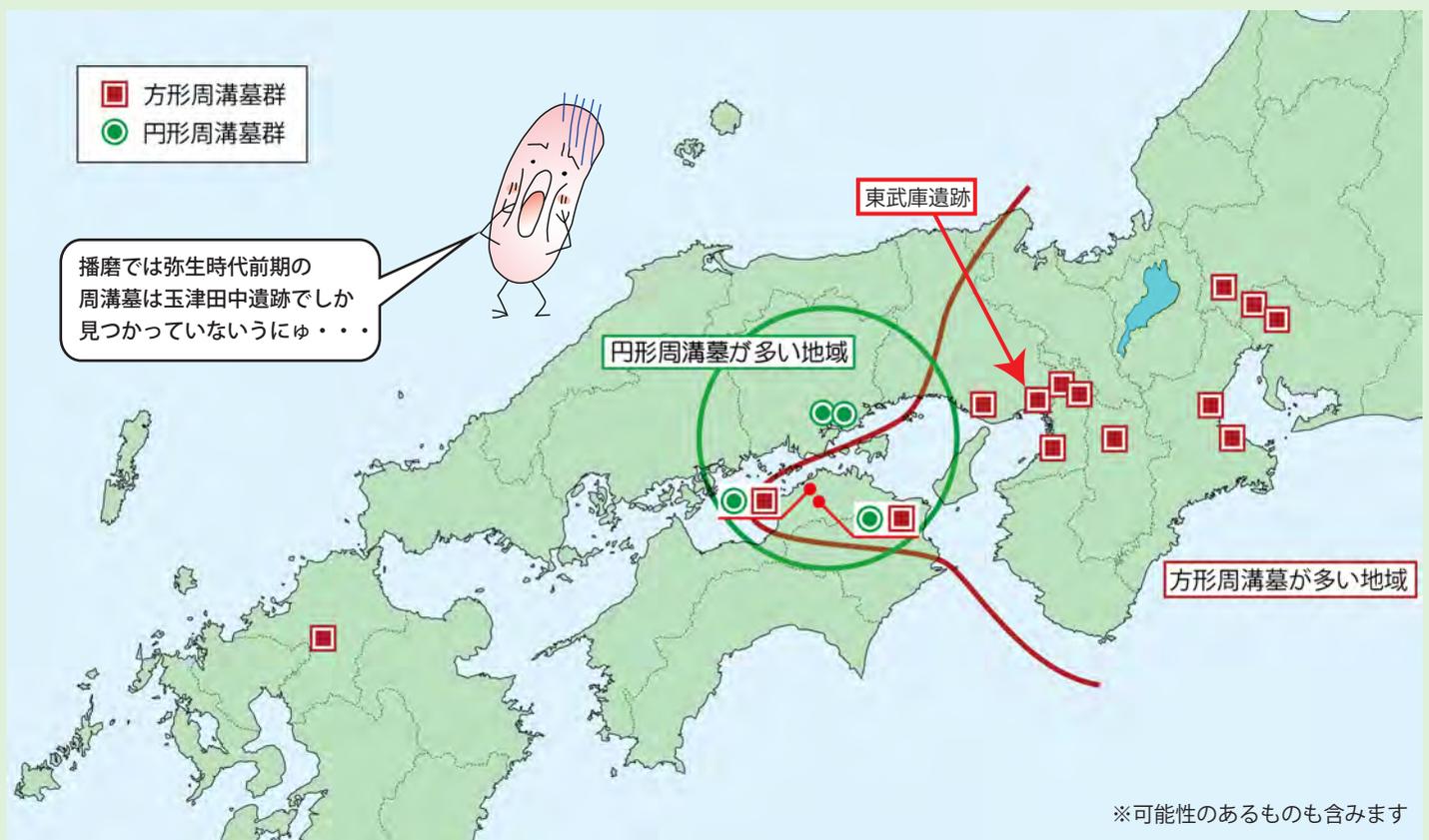


円形周溝墓

陸橋部  
(無い場合もあります)

突出部

方形周溝墓と円形周溝墓のちがい



弥生時代前期の周溝墓の分布

この「周溝墓」は縄文時代の日本列島には無く、弥生時代に入って新たに出現した墓です。「周溝墓」は四角いもの「方形周溝墓」と丸いもの「円形周溝墓」の2種類があり、両者とも弥生時代の前期中頃に出現したと考えられています。形だけが違うように見える「方形周溝墓」と「円形周溝墓」ですが、実は弥生時代を通じて全く違う歴史を歩むことになります。

方形周溝墓は兵庫県・大阪府・香川県といった瀬戸内海東部沿岸で出現します（①東武庫遺跡）。そして前期後半になると近畿地方のほぼ全域でみられ、前期末になると三重県や愛知県、岐阜県にまで広がり、近畿から東海地方の弥生人の一般的な墓として分布を広げていきます。しかし、方形周溝墓は弥生時代を通じて、岡山県から西の地域へは普及しませんでした。

一方で、円形周溝墓は岡山県・香川県で出現します。しかし、方形周溝墓とは違って分布は広がらず、弥生時代前期には非常に限られた地域でのみ造られる墓でした。

このように、方形周溝墓＝近畿・東海、円形周溝墓＝瀬戸内という地域性が現れています。また、このころの「周溝墓」は大きさにさほど差の無いものが密集して築かれているのが特徴で、ひとつの周溝墓に複数の木棺墓や土坑墓が築かれ、多くの人が埋葬されています。同時に、棺の大きさや副葬品にはあまり差異がないことから、弥生時代前期には身分や権力の格差が小さな社会だったのではないかと考えられるのが一般的です。この時代には、「墓」は葬られた人の出身や年齢などを示すという意味が強いようです（②玉津田中遺跡）。

### 3. 円形周溝墓と方形周溝墓－弥生時代中期（約 2,300 ～ 2,000 年前）

弥生前期に造られ始めた方形周溝墓は、中期になると関東にまで分布が広がります。また、時には1つの集落に数百基以上が連なるように造られるなど、**方形周溝墓は近畿地方から東では一般的な墓として普及します**。一方、円形周溝墓もわずかですがその範囲を広げます。弥生前期には岡山県や香川県でしか見られなかった円形周溝墓は、しだいに兵庫県や大阪府でも造られるようになります。しかし、**円形周溝墓の数は方形周溝墓に比べるととても少なく、近畿地方では例外的**です。また、この時期に築かれた円形周溝墓は瀬戸内地方に近い西播磨が最も多く、これらは近畿地方へ移住してきた瀬戸内地方の人たちなど、例外的な人たちの墓なのかもしれません。

またこの頃、2つの周溝墓の間に明確な差が現れます。それが**墓に葬られる人数**です。

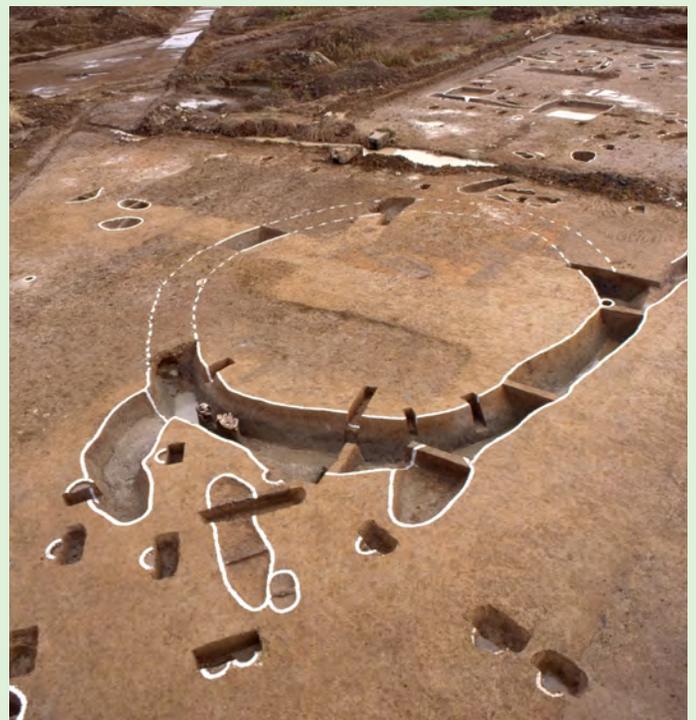
弥生時代中期の方形周溝墓は、しばしば1つの周溝墓に多くの人々が埋葬されていました。一方、円形周溝墓は基本的に一人を埋葬しています。このことから、**円形周溝墓に葬られた人は、方形周溝墓に葬られる人に比べ、より限られた人**であったといえます。

玉津田中遺跡では、播磨最大の方形周溝墓群がみつかったにゅ。また、まわりから葬儀を行った可能性のある建物がみつかったことで、とても有名にゅ。



密集してみつかった方形周溝墓群  
(神戸市 玉津田中遺跡)

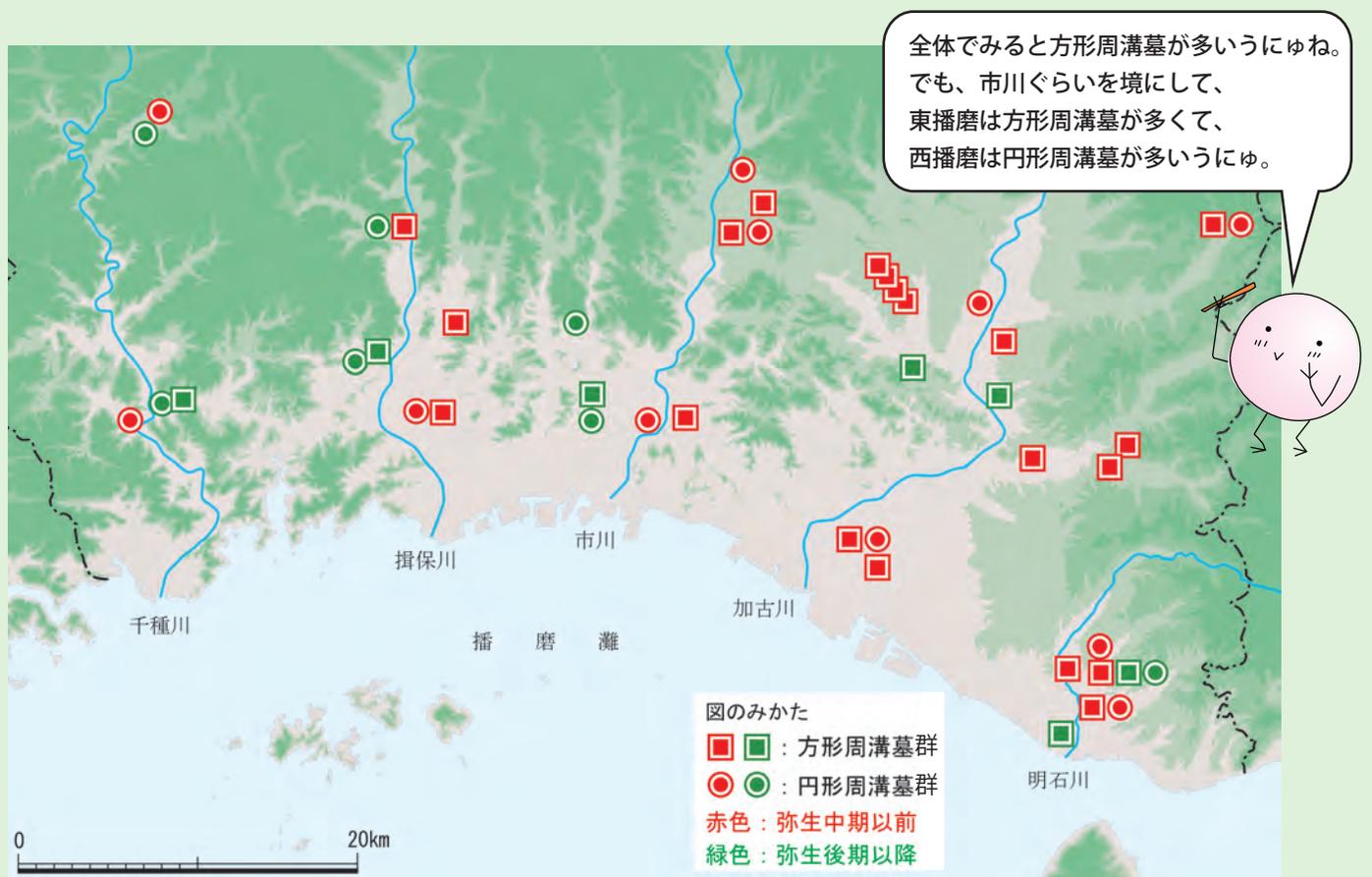
兵庫県立考古博物館提供



1つだけみつかった円形周溝墓  
(赤穂市 東有年・沖田遺跡)

方形周溝墓が密集している遺跡は普通だけど、円形周溝墓が密集している遺跡は少ないにゅ。このへんも円形周溝墓と方形周溝墓の違いを探るヒントになりそうにゅ。





### 播磨の周溝墓

ただし、この「**限られた人**」がどんな人たちだったのかについては、**現在でも意見が分かれています**。「王様」や「権力者」などの政治的指導者、「英雄」や「カリスマ」など、いろいろな説があります。また、方形周溝墓にも、マウンドの大きさや棺の大きさ、副葬品の有無に差があり、葬られた人の身分や地位の差が表れているとされ、一般の人とは異なる特別な人も葬られていると考えられます。

いずれにせよ、**方形周溝墓を造る地域と円形周溝墓を造る地域の間には、文化や風習に大きな違いがあったことは確か**なようです。

それでは播磨地域ではどうだったのでしょうか？

実は弥生時代中期前半には、播磨では集落や墓があまりみつかっていません。播磨で盛んに集落が築かれるのは中期中頃からで、中期後半になると集落が爆発的に増加します。

赤穂市では中期の方形周溝墓はみつかっておらず、瀬戸内的な円形周溝墓が築かれています（**③東有年・沖田遺跡**）。近畿の西端部であった**赤穂など西播磨は、岡山県や香川県など瀬戸内地方からの影響を強く受け、最初は円形周溝墓を受け入れた地域**であったようです。

一方、赤穂市以外の播磨地域では、盛んに方形周溝墓が築かれます（**④新宮宮内遺跡、⑤玉津田中遺跡**）。**播磨の大部分の地域では多くの方形周溝墓が盛んに築かれ、近畿地方と同じような文化と風習をもつ社会**であったようです。

## 4. 社会の変化と墓—弥生時代後期（約 2,000 ～ 1,800 年前）

弥生時代後期になると、播磨の弥生墓に大きな変化が現れます。

播磨では弥生時代後期初頭までたくさん築かれていた墓が、**後期前半には突然築かれなくなります。**特に西播磨では集落の数も非常に少なくなることから、人口そのものが減少しているようです。理由は分かりませんが、戦争や自然災害などによって、社会が混乱していた時期なのかもしれません。

この状況が変わるのが弥生時代後期後半ごろで、再び方形周溝墓や円形周溝墓などの墓が築かれ始めます。ところが、**再び築かれるようになった円形周溝墓は、それまでのものとは異なった特徴を持つようになります（⑥有年原・田中遺跡、⑦西条 52 号墓）。**

全長 20m になるような巨大なものや、突出部とよばれる「でっぱり」がついたもの、大型装飾器台という墓に供えるための専用の土器が供えられるもの、「石槨」とよばれる石の部屋を造り、そこに棺や遺体を納めるものなど、弥生時代中期までの墓にはみられなかった新しい特徴がみられます。実は、これらの特徴はすべて「古墳」の特徴に近く、**「古墳」の祖形とも呼べる墓が播磨に出現したといえます。**



突出部のある円形周溝墓  
(赤穂市 有年原・田中遺跡)



大型装飾器台と装飾壺  
(赤穂市 有年原・田中遺跡)

【 弥生時代の特徴 】                      【 古墳時代の特徴 】

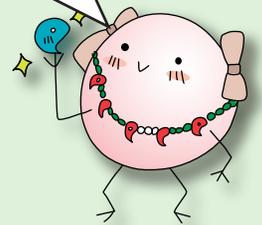
「突出部のある円形周溝墓」 ⇒ 「前方後円墳」？  
「大型装飾器台」「特殊器台」 ⇒ 「埴輪」？  
「石でできた部屋（石槨）」 ⇒ 「竪穴式石室（槨）」？

播磨の弥生墓には、古墳とよく似たものがあるにゆ。  
古墳を生み出したのは奈良県といわれているけど、  
播磨の有力者の影響もあったといわれるにゆ！



石でできた部屋「石槨」（手前は土器棺）  
(加古川市 西条 52 号墓)

兵庫県立考古博物館提供



地域 時代	千種川 流域	揖保川 流域	市川 流域	加古川 流域	明石川 流域
弥生時代 中期後半	東有年・ 沖田	新宮宮内			
弥生時代 後期前半		新宮宮内			
弥生時代 後期後半	有年原・田中			西条 52 号	
弥生時代末 ～古墳時代初	有年牟礼・山田				
古墳時代 前期	西野山 3	丁瓢塚 養久山 1			

弥生時代中期の墓と同じ特徴の墓がそのまま後期に造り続けられるわけじゃないにゆ。弥生中期と後期で違う墓＝違う社会になった、といえそうにゆね。

弥生時代後期前半はなぜか墓も集落も少なくなるにゆ。なにがあったにゆ？

表のみかた

- 赤色・・・集落の数や大きさを示します
- 方形周溝墓群・方形墓
- 緑色・・・山の上にあるもの
- 円形周溝墓群・円形墓
- 茶色・・・平野にあるもの
- 前方後円(方)墳

このころ、播磨では方形周溝墓が少なくなって、円形の墓が増えていくにゆ。それと、平野にある墓が少なくなって、どんどん山の上に移動していくにゆ。



これらの墓は、それまでの墓と大きく異なった特徴を持ち、それまでの方形周溝墓や一般の人々が葬られていた墓と全く違うものであるため、「王様」や政治的な「権力者」のような人物が葬られたのではないかと考えられます。

これらの墓に葬られた「権力者」がどのような人物であったかを考えるのは難しいですが、弥生時代後期前半におこった社会の混乱を鎮めることに成功し、地域を治めた「王様」のような人物だったのかもしれない。

## 5. 格差のひろがる「墓」-庄内式期（約 1,750 年前）

弥生時代から古墳時代へと移り変わるこの時期には、弥生時代後期の墓でみられた権力者の墓がどんどん大きくなっていく様子が日本列島各地で見られます。中でも、播磨はそれがはっきりとわかる地域です。

それまで集落の近くにあった墓は、しだいに集落から離れた丘陵や山の上に造られることが多くなっていき、集落とは明確に区別されるようになってきます。

また、集落の近くに方形周溝墓が築かれたとしても、一辺が 20m を超えるような、**これまでに造られなかったほど大きなものが造られる**ようになります（**⑧有年牟礼・山田遺跡**）。

しだいに一般の人々は溝で囲われた土盛りを持った周溝墓を造らなくなり、選ばれた人々だけがムラから離れた山の上に土盛りをした大きな墓と貴重な副葬品を持った墓を造るようになり、**一般の人々の墓と「権力者」の墓が区別されるようになりました**。

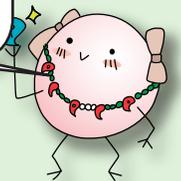
またこのころ、集落から離れた墓の中に、巨大な土器や香川県などから持ち込まれた土器を用いた特別な「土器棺」が多数みられるようになります（**⑨和田神社遺跡**）。

土器棺は乳幼児が葬られたとされています。そのため、このような特別な土器棺には、一般の人々の子どもとは異なり、特別な待遇を受けることのできた子どもが葬られた可能性があります。つまり「王様」や「有力者」の子どもが特別な土器棺に葬られ、子どもにまで格差がはっきりと現れるようになっています。



一辺が約 20m ある巨大な方形周溝墓  
(赤穂市 有年牟礼・山田遺跡)

土器棺には7歳ぐらいまでの子どもが葬られたことがわかっているにゅ。小さなお子さんから特別扱いられているので、「王様」の子どもではないか？といわれているにゅ。



有年牟礼・山田遺跡の方形周溝墓は、兵庫県でも最大級の方形周溝墓にゅ。大型装飾器台や香川県産の土器も供えられていて、とても特別な墓にゅ。



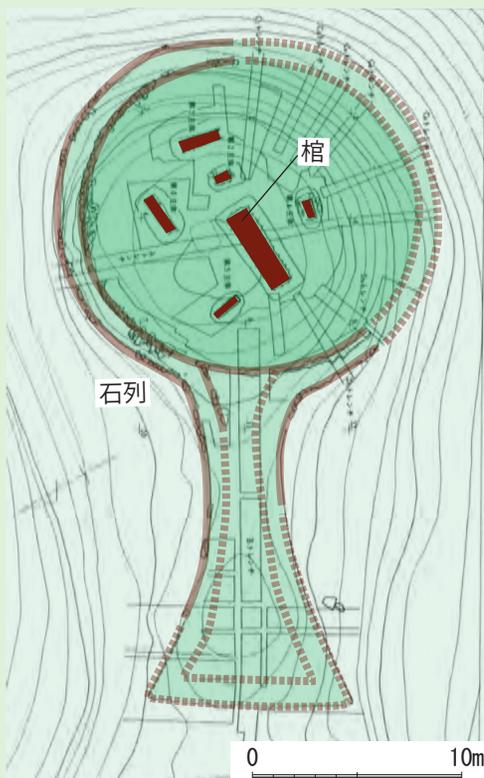
土器棺のみが葬られた方形の墓  
(三木市 和田神社遺跡)

## 6. 「古墳」の出現—古墳時代前期（約1,700年前）

このように、一般の人々ではなく、**有力者を葬るために大きくなった墓は「古墳」と呼ばれ、古墳時代の到来を示す1つの指標になっています。**

古墳を築くことのできる政治的な権力者と一般の人々を区別し、権力者が人々に広く格差をみせつける方法として「古墳」が利用されたのです。

播磨でも全長100mを超える前方後円墳（**⑩丁瓢塚古墳**）や、副葬品が増え始めた古墳（**⑪養久山1号墳**）が築かれています。古墳には地域の権力者の権威を示すために、弥生時代にはみられない、さまざまな副葬品が納められるようになります（**⑫西野山3号墳**）。



たつの市 養久山1号墳

養久山1号墳は古墳だけど、たくさんの棺が造られているにゅ。まだ個人のための墓には足りていないのかもしれないにゅ。



この鏡は近畿地方の有力者から各地の有力者に配られたものとされているにゅ。千種川流域ではここでしか出土していない、非常に貴重なものにゅ。



前期古墳から出土する副葬品  
(上郡町 西野山3号墳)

## 6. まとめ

このように、弥生時代に出現した方形周溝墓や円形周溝墓は、当時の風習や社会の違いに左右され、時期ごとに大きく変化し、弥生時代を考えるうえで欠かせないものです。

特に**播磨は方形周溝墓と円形周溝墓が共存する特徴的な地域であると同時に、「古墳」の祖形ではないかとされる弥生時代の墓が多く存在しており、弥生時代の墓の変化=社会の変化が非常によく分かる地域です。**

今後も研究が行われ、新たな弥生時代の社会の姿が明らかになっていくことでしょう。



# 出品目録

所在地	遺跡名		種別	点数	備考
尼崎市	東武庫遺跡	1号墓周溝	甕	1	兵庫県立考古博物館所蔵
		2号墓周溝	弥生土器	3	兵庫県立考古博物館所蔵 (兵庫県指定文化財)
神戸市	玉津田中遺跡	土器棺墓(ST22001)	壺・壺蓋	2	兵庫県立考古博物館所蔵
赤穂市	東有年・沖田遺跡	円形周溝墓 周溝	弥生土器	27	赤穂市教育委員会所蔵
たつの市	新宮宮内遺跡	方形周溝墓(STD01) 南溝	弥生土器	10	たつの市教育委員会所蔵
		木棺墓(SKD11) 木棺内	石 鏃	19	たつの市教育委員会所蔵
		円形周溝墓 周溝	弥生土器	5	たつの市教育委員会所蔵
神戸市	玉津田中遺跡	方形周溝墓群 周溝	弥生土器	17	兵庫県立考古博物館所蔵
		平地建物(SB40001)	弥生土器	6	兵庫県立考古博物館所蔵 (兵庫県指定文化財)
たつの市	養久山墳墓群	41地点土器棺墓	広口壺・大型鉢	2	たつの市教育委員会所蔵
赤穂市	精谷山遺跡	土器棺	広口壺	2	赤穂市立有年考古館所蔵 (赤穂市指定文化財)
上郡町	羽山遺跡	土器棺	壺・高杯	3	赤穂市立有年考古館所蔵 (赤穂市指定文化財)
赤穂市	有年原・田中遺跡	円形周溝墓 周溝	弥生土器	70	赤穂市教育委員会所蔵 (赤穂市指定文化財含む)
加古川市	西条52号墓	円形墳丘墓 石槨・土器棺墓	弥生土器	6	兵庫県立考古博物館所蔵 加古川市西条自治会所有
			内行花文鏡片	33	
赤穂市	有年牟礼・山田遺跡	方形周溝墓	弥生土器	11	赤穂市教育委員会所蔵
三木市	和田神社遺跡	土器棺墓	弥生土器	4	兵庫県立考古博物館所蔵
姫路市	丁瓢塚古墳	墳丘上	土師器	1	赤穂市立有年考古館所蔵 (赤穂市指定文化財)
たつの市	養久山墳墓群	1号墳第1主体	副葬品類	7	たつの市教育委員会所蔵
上郡町	西野山古墳群	3号墳粘土槨内	副葬品類	99	赤穂市立有年考古館所蔵 (赤穂市指定文化財)

本展を開催するにあたり、以下の方々にご協力いただきました。心よりお礼申し上げます。(敬称略・五十音順)

(機関・団体) 加古川市西条自治会・たつの市教育委員会・兵庫県教育委員会・兵庫県立考古博物館

(個人) 大久保徹也・岸本一宏・岸本道昭・森岡秀人・山上雅弘・若林邦彦

